

モンゴル訪日団の記録

(対象国：モンゴル国/テーマ：	第1分団「日本文化」
	第2分団「科学技術」
	第3分団「スポーツ」)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」として、対外発信力を有し将来を担う人材を招へいし、経済、社会、文化、歴史、外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、日本の外交基盤を拡充することを目的とし、モンゴルから日本語学習高校生 20 名、日本文化関係青少年 13 名、メディア・ジャーナリズム・記者 8 名、工学系優秀大学生 10 名、地方各県高校生 21 名、スポーツ青少年 16 名と引率者 3 名を 2019 年 3 月 10 日（日）～3 月 17 日（日）の 7 泊 8 日間の日程で招へいし、大学や高等学校訪問など交流の場を通じて、日本の青少年や市民との親睦を深めたほか、日本の経済・社会・歴史・先端産業・伝統産業・文化等が体感できるような施設及び企業、地方都市の参観を通じて、日本についての多面的な理解と、日モンゴル両国青少年間の友好を深めた。

来日直後、全団共通で「おもてなし研修」についての講義を受け、その後テーマに沿って各団に分かれて都内視察等を行った後、地方都市を視察し、日本及び日本文化への理解促進を図った。水俣病や原爆等の語り部らの講話を聞き、各テーマへの理解を深め、日本科学未来館などの日本の最先端技術についての見識も深めた。水俣病の他にも環境保全に関しては、風力発電についての講義を受けるなど、環境保全意識啓発の一助とした。

【参加国・人数】

- 第1分団 日本語学習高校生・日本文化関係青少年・メディア・ジャーナリズム・記者
42名 【テーマ：日本文化】
(高校生 20 名+学生 13 名+社会人 8 名+引率者 1 名)
- 第2分団 工学系優秀大学生・地方各県高校生 32名 【テーマ：科学技術】
(高校生 21 名+学生 10 名+引率者 1 名)
- 第3分団 スポーツ青少年 17名 【テーマ：スポーツ】(学生 14 名+社会人 2 名+引率者 1 名)

【訪問地】

- 第1分団 東京、熊本
第2分団 東京、神奈川
第3分団 東京、長崎

2. 日程

《第1分団》

- 3月10日（日） 成田国際空港より入国
オリエンテーション
- 3月11日（月） 講義：おもてなし研修
【① 日本文化・若手メディアコース】
視察：日本工学院専門学校

- 体験：座禅
 【② 日本語学習コース】
 大学訪問：東京外国語大学 府中キャンパス
 体験：風鈴絵付け
- 3月12日（火） 【① 日本文化・若手メディアコース】
 視察：テレビ東京ホールディングス
 【② 日本語学習コース】
 視察：NHK スタジオパーク
 【共通】
 参観：東京国立博物館 TNM & TOPPAN ミュージアムシアター
 参観：東京タワー
- 3月13日（水） 熊本へ移動
 ホームステイ入村式（阿蘇市）
- 3月14日（木） ホームステイ離村式（阿蘇市）
 講義：語り部プログラム（熊本地震）
 視察：長陽大橋・阿蘇大橋
 視察：阿蘇鉄道 中松駅 枕木「記念プレート事業」
- 3月15日（金） 視察：JNC(株)水俣製造所
 視察：水俣市立水俣病資料館
 講義：語り部講話（於：水俣市立水俣病資料館）
 参観：桜の馬場・城彩苑
- 3月16日（土） 東京へ移動
 商業施設視察
 参観：皇居・二重橋
 ワークショップ
- 3月17日（日） 参観：日本科学未来館
 成田空港より帰国
- 《第2分団》
- 3月10日（日） 成田国際空港より入国
 オリエンテーション
- 3月11日（月） 講義：おもてなし研修
 参観：皇居・二重橋
 視察：東証 Arrows
 視察：千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス
- 3月12日（火） 大学訪問：東京理科大学理学部 「風力発電模型の理科実験」
 ランチ交流：東京理科大学理学部
 参観：東京理科大学理学部 近代科学資料館
 参観：江戸東京博物館
 参観：パナソニックセンター東京
- 3月13日（水） 講演：すみだの講演「すみだのものづくり」「すみだ地域ブランド戦略とは」
 体験：墨田区の各工房でプログラム（皮革小物作成）
 ホームステイ入村式（横須賀市）
- 3月14日（木） ホームステイ離村式（横須賀市）
 ランチ交流：横須賀西海岸体験たび推進協議会（ホストファミリー）
 学校交流：三浦学苑高等学校
- 3月15日（金） 参観：高德院（鎌倉大仏）
 参観：横浜中華街
 視察：ダスキン横浜中央工場
 参観：川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム

3月16日(土) 参観：日本科学未来館
商業施設視察
ワークショップ

3月17日(日) 参観：浅草・仲見世
成田空港より帰国

《第3分団》

3月10日(日) 成田国際空港より入国
オリエンテーション

3月11日(月) 講義：おもてなし研修
大学訪問：日本体育大学
講義：日本の相撲について（公益財団法人 日本相撲連盟）

3月12日(火) 視察・体験：柔道（於：講道館）
体験：ラジオ体操
参観：原宿

3月13日(水) 長崎へ移動
参観：長崎カステラランド
ホームステイ入村式（南島原市）

3月14日(木) ホームステイ離村式（南島原市）
参観：雲仙岳災害記念館

3月15日(金) 視察：長崎原爆資料館・平和公園
講義：被爆者講話（於：長崎原爆資料館）
参観：グラバー園
視察：長崎市西工場

3月16日(土) 東京へ移動
商業施設視察
ワークショップ

3月17日(日) 参観：東京タワー
成田空港より帰国

3. プログラム記録写真 《全団共通》



3月10日【オリエンテーション】
ベルモントホテル



3月11日【講義】
おもてなし研修



3月16日【ワークショップ】

《第1分団》



3月11日/日本文化・若手メディアコース
【視察】日本工学院専門学校



3月11日/日本文化・若手メディアコース
【体験】座禅



3月11日/日本語学習コース
【大学訪問】東京外国語大学 府中キャンパス



3月11日/日本語学習コース
【体験】風鈴絵付け



3月12日/日本文化・若手メディアコース
【視察】テレビ東京ホールディングス



3月12日/日本語学習コース
【視察】NHKスタジオパーク



3月12日【参観】
東京国立博物館 TNM & TOPPAN ミュージアムシアター
VR 作品『風神雷神図のウラ』
監修：東京国立博物館 制作：凸版印刷株式会社



3月14日【ホームステイ離村式】
(阿蘇市)



3月14日【講義】
語り部プログラム (熊本地震)



3月14日【視察】
阿蘇大橋



3月14日【視察】
阿蘇鉄道 中松駅 枕木「記念プレート事業」



3月15日【視察】
JNC(株)水俣製造所



3月15日【視察】
水俣市立水俣病資料館



3月15日【講義】語り部講話
水俣市立水俣病資料館



3月15日【参観】
桜の馬場・城彩苑



3月17日【参観】
日本科学未来館

《第2分団》



3月11日【参観】
皇居・二重橋



3月11日【視察】
東証 Arrows



3月11日【視察】
千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス



3月12日【大学訪問】
東京理科大学理学部
「風力発電模型の理科実験」



3月12日【ランチ交流】
東京理科大学理学部



3月12日【参観】
江戸東京博物館



3月12日【参観】
パナソニックセンター東京



3月13日【講演】
すみだの講演「すみだのものづくり」
「すみだ地域ブランド戦略とは」



3月13日【体験】
墨田区の工房でプログラム体験（皮革小物作成）



3月14日【ホームステイ離村式】
（横須賀市）



3月14日【学校交流】
三浦学苑高等学校



3月15日【参観】
高德院（鎌倉大仏）



3月15日【視察】
ダスキン横浜中央工場



3月15日【参観】
川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム



3月17日【参観】
浅草・仲見世

《第3分団》



3月11日【大学訪問】
日本体育大学



3月11日【講義】日本の相撲について
(公益財団法人 日本相撲連盟)



3月12日【視察・体験】
柔道（講道館）



3月12日【体験】
ラジオ体操



3月14日【ホームステイ離村式】
（南島原市）



3月15日【視察】
平和公園



3月15日【参観】
グラバー園



3月15日【視察】
長崎市西工場



3月17日【参観】
東京タワー

4. 参加者の感想

◆第1分団 (日本語学習高校生)

日本から学ぶべきことはたくさんあるが、何より清潔で整理整頓されていること、それが徹底した習慣になっていることを学ばなければならないと思った。清潔好きで几帳面な人々だから、どんなことも心をこめて行っていると感じた。モンゴル人たちにはこの点が欠けている。

今回、日本民族の文化、食べ物、歴史、自然環境、先進技術、どんな発明を行ったかについて、今まで馴染みがなかったことを学べて嬉しかった。これらの学んだことを国に帰って、学校で広めたい。

◆第1分団 (日本文化関係青少年)

モンゴルには日本とよく似ている(もしかするとそっくりかもしれない)文化や文化遺産が数多くあるが、それに気づかずにいることが多い。日本では伝統と近代的な生活を両立させている。将来的にはモンゴルも自国の伝統文化と近代的な生活を日本で行われている以上に両立させることを実現したい。

◆第1分団 (メディア・ジャーナリズム・記者)

日本人の社会における責任感、他者に迷惑をかけないように生活をするという習慣は、モンゴルでも普及させたい。今後は、自分の生活にも日本で学んだことを取り入れたい。私はプロの記者として、社会、経済のテーマでそれぞれ記事を執筆し、自然や環境のことなどの重要な問題を常に取り上げることで、自分の行動にも活かせるようにしたいと思う。モンゴルのような発展途上国が経済の発展や経済利益を上げる為に活動するのは正しいことではある。しかし、環境開発、生態系、自然、地球の利益を常に最優先することを心掛けるべきだと思う。環境を汚染してしまったら、いかに金銭的、收入的に恵まれたとしてもそれらに代えることはできないからである。

◆第2分団

今回の旅行は、最も興味深く、最も楽しくて、数多くのことを学べた素晴らしい旅行だった。旅行中に記

録した日記、写真、資料などは、大切に保管するつもりだ。モンゴル人は日本人から学ぶべきことが多いと気づかされた。最も印象的なことは、ゴミを分別して捨てること、お互い尊重し合ってお辞儀をして挨拶すること、レストランではスタッフが必要なものに気を配って持ってきてくれることなどである。こうした日々について、いつまでも忘れないだろう。

◆第2分団

人々の礼儀作法、インフラ、清潔好きで几帳面な日本人についてモンゴルで広めたいと思う。これは今のモンゴルにとって非常に必要なことだし、人々が尊重し合ってお辞儀正しく行動し、道路や建物などのインフラが整うようになればいいと思う。

◆第2分団

来日前と来日後では、日本へのイメージが大きく変化した。以前は漠然と想像していただけだったが、今は着目したい点も見つけ、帰国後も取り入れたいと思うことができた。生活に取り入れて実践したいと思うことがいくつもある。時間を守ること、心を込めて行うことなどである。日本に来たことで、自分の夢がまた一つ増え、このすばらしい国の文化を尊敬する気持ちが生まれた。

◆第3分団

訪問時に最も感じたことは、ゴミを分別して捨てること、挨拶の習慣、時間を守ることなどが実にすばらしいと思った。さらに、分別したゴミを加工してリサイクルすることは、参考にすべきだと思った。モンゴルでも、早くこのような意識が高まるといいと願っている。モンゴルには、「身を律してから家を直せ、家を直してから国を良くせよ」という諺もあるので、祖国に帰ったら、まずは自分自身のことから始めていきたい。自分でも時間を守って、他の人々にも時間を守るように呼びかけたい。あらゆることに対して感謝するようにしたい。すばらしいと感じたのは、挨拶の習慣で、日本人は家庭的でもてなし好きの人々だと思った。また、モンゴルでは、地震の際に応急処置をどこでどう行ったらいいかなど、全く知識がない人が多いが、日本では防災訓練がきちんと行われていてすばらしいと思った。

◆第3分団

今回の訪問時に、日本人のみんなからとても良いエネルギーをもらうことができた。どの人も心からの笑顔で接して、相手を元気づけていた。そのおかげで、あらゆることについて前向きで、明るい気持ちになることができた。

5. 受入れ側の感想

○日本の美、おもてなしについて、将来を担うモンゴルの若者の皆様に、日本の文化と伝統的な相手を大切に作る心とふるまいを体感、おもてなしについて理解を深めていただくことを目的に実施致しました。研修中、真剣にメモを取ったり、積極的に挙手される様子が伺え、終始積極的な姿勢で取り組んでいただきました。「おもてなし」とは何かという質問に対し、最初はモンゴルで聞いたことはあるものの説明はできないということでしたが、研修終了時には「おもてなしを実際に受けながら学びました。」「日本の文化や歴史など学びながらおもてなしを学ぶことができました。」との声をいただき、目的であるおもてなしについて実感し、理解を深めていただくということができたと感じました。

○モンゴルの皆さんも受入家庭の皆さんも今回のホームステイを大変喜んでおりました。

離村式は、涙や笑顔でのお別れとなり、また是非阿蘇を訪れていただきたいと受入家庭からも声が上がっています。

○受入先の家庭からは、率先して料理の手伝いや洗い物などをしてくれて非常によかったです。モンゴルという国に興味を持つようになりました。海外に孫ができました。言葉は通じなくても交流ができたことがとてもうれしく思いました。今後もモンゴル人を受け入れたいです。次回のオリンピックに受け入れた子どもができるかもしれないと思うとオリンピックが楽しみです等の声がありました。事務局としても離村式の様子を見て、受入先の家庭もモンゴルからの皆さんも楽しんでくれた様子が伺えた為、非常に喜んでおります。今後も受入を継続したいと思っております。

○大変熱心な様子で日本の文化財をテーマとしたVR作品を鑑賞いただき、嬉しく思っております。上演中、江戸時代の屏風絵に描かれた花がモンゴルにも咲いているというお話を参加者の方から伺い、意外なところにもモンゴルと日本のつながりが見つけられるのだと、我々も新しい発見をさせていただきました。

6. 参加者の対外発信

N. Длгрмөрөн
3月14日 12:48

Jenesys2018 Delegation from Mongolia 1p 6ar
Homestay uneheer hogjittei goy bailaa nairsgaar ugtaj awsan ger bulinhendee mash ih bayrlalaa

あなた、Uyanga Purew-Ochir、Narun Bat、他19人

いいね! コメント シェアする

コメントする...
投稿するにはEnterキーを押します。

https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=804236313244084&id=100009731670001

概要) JENESYS2018 についての発信
第1分団 南阿蘇村ホームステイ

Yunga Мөнгөнбаатар ▸ Jenesys2018 Delegation from Mongolia
3月13日 16:38

Сумида дүүргийн арьсан урлал
ありがとうございます

Jenesys2018 Delegation from Mongolia

いいね! コメント シェアする メッセージ

<https://www.facebook.com/JenesysMongolia/posts/IUZ1199074729889>

概要) JENESYS2018 についての発信
第2分団 すみだものづくり体験(皮ポーチ)

Zolbayar Ganbaatarさんがアルバム「Jenesys2018」に写真21件、動画1件を追加しました。
3月12日 1:14

Day2
Японы сонирхогчдын Сумо бөхийн нийгэмлэгийн танилцуулга болон Сумо бөхийн үүсэл, түүхийн талаар тус нийгэмлэгийн тэргүүн Токиогийн ХААИС-ын сумогийн клубийн захирал Ясу И яриа хийлээ.
Энэ нийгэмлэг нь сумо бөхийг сонирхогч хүүхэд Багачууд, эмэгтэйчүүд болон эрэгтэйчүүдийн дунд сумо бөхийг сурталчлах дотоод болон олон улсын тэмцээн зохион байгуулдаг юм.
Мэргэжлийн сумо нь эмэгтэй хүнийг барилдуулах дэвжээн дээр гэрээг хориглодог юм билээ.
Манай улсаас анх 1992 онд мэргэжлийн сумогийн шанхыг Кёүшюван Батбаяр болон Кёүтаню Цэвэгиэм нар татаж байжээ. Мөн Монголоос анх удаа ёкозүна Асачиүр Давагдорж (69 дахь аварга) түрүүжж түүний дараа Жагүю Даважаргал (69 дэх аварга), Харүмафүжи Бямбдорж (70 дахь аварга), Какүрюү Ананд (71 дэх аварга) зэрэг ёкозүна цолтнууд төрсөн байна.
Сонирхогчдын анхны олон улсын тэмцээнд Даяар дуурсах далай даян дархан аварга Б. Бат-Эрдэнэ, эмэгтэйчүүдээс 2015, 2016 онд Сүкидмаа нар аваргалж байсныг Ясу И дурсан ярьлаа.
Бас болоогүй эх дурсгалын сүйл өгсөн байдныг.
Үгүй эв бас лаж жүзэр байх уу, барилдаад ялсан байдны (Кэндо-Воллейбол) 0,2 ооов
We are Yellows-Group 3
#jm20190310 Jenesys2018 Delegation from Mongolia

29 29
コメント5件 シェア3件

<https://www.facebook.com/zolbayargan/posts/2261973773862999>

概要) JENESYS2018 についての発信
第3分団 日本相撲連盟

N. Длгрмөрөн
3月16日 14:13

Jenesys2018 Delegation from Mongolia 1p 6ar

あなた、Akvv Ariuks、Enkhee Dorj、他4人

いいね! コメント シェアする

コメントする...
投稿するにはEnterキーを押します。

https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=805298023137913&id=100009731670001

概要) JENESYS2018 についての発信
第1分団 熊本城

7. 帰国後のアクションプラン（抜粋）

時間	場所	内容
3月22日	新モンゴル高校	日本の文化・伝統・日本人の習慣・優しい心について紹介し、私たちモンゴル人が学ぶべき点が多いことを紹介する。
5月30日まで	家庭・学校	日本における安全管理について他の人たちに説明し、水銀による病気（訳注：水俣病）について話をする。
6月以前または春学期の終了前	モンゴル国立大学法律学部 日本法律学センター	水俣病とその分布、対策、現状、それらについて私たちが何を教訓にすべきか、具体的なビジョンが得られるまで話し合う。熊本の事例についても同様に話し合う。
3月10日～4月10日	ウヌードゥル紙のサイト	日本でプログラムの一環として見聞きしたこと、知識を得たことについて記事を書いてみんなに広める。
帰国後10日以内	自分の所属先のサイト	水俣病、2016年の熊本地震後の復興、日本人の家庭を訪問したことについて記事を書く。
2018年～2019年度末	フブスグル県	このプログラムに参加した人たちと連絡を取り、日本について学んだこと、経験したことを多くの人々、社会で活躍している人々に広めて、紹介するための活動を行う。（例：クラブの設立、催し物やコンテストの開催）など。どれか実現可能なものを実行する。
6月15日～新年度	学校	ゴミを分別する、ゴミ問題を完全に解決する。
4月10日	国境警備庁、家族、同級生、友人たち	1週間学んだこと、見聞きしたことをプレゼン形式で発表をする。特に防災対策についての知識などみんなにとって必要なことを話す。